

# 市立ひらかた病院の現状と 令和8年度の取り組みについて

市立ひらかた病院

市立ひらかた病院  
Hirakata City Hospital

P  
この先の信号左折←

1. 市立ひらかた病院の概要
2. 令和7年度の事業実績等
3. 令和8年度の取り組み

# 1. 市立ひらかた病院の概要

## ◆ 市立ひらかた病院の役割

北河内二次医療圏における唯一の公立総合病院として、「心のかような医療を行い、信頼される病院」を基本理念とし、患者の立場に立った質の高い医療の提供や、救急医療・小児医療などの政策医療の役割を担い、地域医療に貢献する。

昭和25年からの歴史を経て、平成26年9月に新築7階建て新たに開院。

## ◆ 主要業務

外来診療科目：24科（月～金 午前8時15分～11時30分）

内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、小児科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、形成外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科、精神科

入院許可病床数：335床（一般病床327・感染症病床8）

令和6年9月から人員不足により6階西病棟（47床）を休棟しており、稼働病床は288床となっています。

救急：24時間365日対応（救急科、小児科）

人間ドック、脳ドック（月～金）

## ◆ 府の病院分類では「急性期病院」に区分

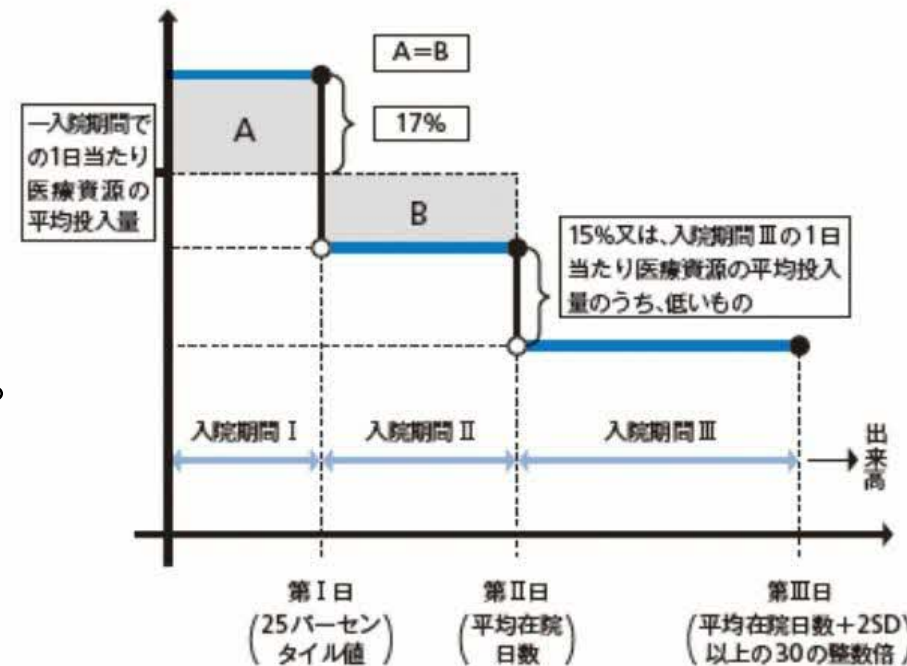
本院は、地域で高度な医療を支える病院として、専門的な手術の提供や、休日・夜間を含めた二次医療圏の救急患者の受入を中心に担う急性期病院であるとともに、北河内医療圏域で唯一の公立の総合病院として不採算とされる政策医療についても担っており、自治体病院としての役割を果たすため、日々、医療水準の向上に努めています。

## ◆ 包括払い方式となるDPC対象病院

DPCとは「診断群分類別包括評価支払方式」の略で、従来の出来高払方式とは異なり、患者の病名や治療内容、また入院日数などによって定められた1日あたりの定額の点数を基本に医療費を計算する方式で、特に入院日数については平均在院日数を基に3段階に区分され、初期が高く評価されています。

なおDPC方式は、全ての診療行為が包括されているわけではなく、出来高で算定するものも多数あるため、包括部分と出来高部分を組み合わせて請求します。

点数設定方式(標準パターンA)



## 2. 令和7年度の事業実績等

## (参考) 令和6年度決算の状況

---

純損益

▲890,722,741円

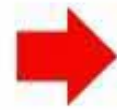
# ◆ 令和7年度の経営目標

令和6年度(9月以降)

最大目標:入院収益 4億8,000 万円/月

目標達成のために必要な経営実績

診療単価	稼働病床の稼働率
65,000円	288床の 86%
	335床の 74%
	(248 床)



令和7年度

最大目標:入院収益 **5億1,200 万円**/月

目標達成のために必要な経営実績

診療単価	稼働病床の稼働率
<b>68,000円</b>	288床の <b>87%</b>
	335床の <b>75%</b>
	( <b>251</b> 床)

# ◆ 令和7年度KPIと達成に向けた取組指標

## ➔ KPI (重要業績評価指標)

DPC期間Ⅱ超え率：30%以内

病床稼働率：稼働病床の稼働率 288床➔87% (251床)  
335床➔75%

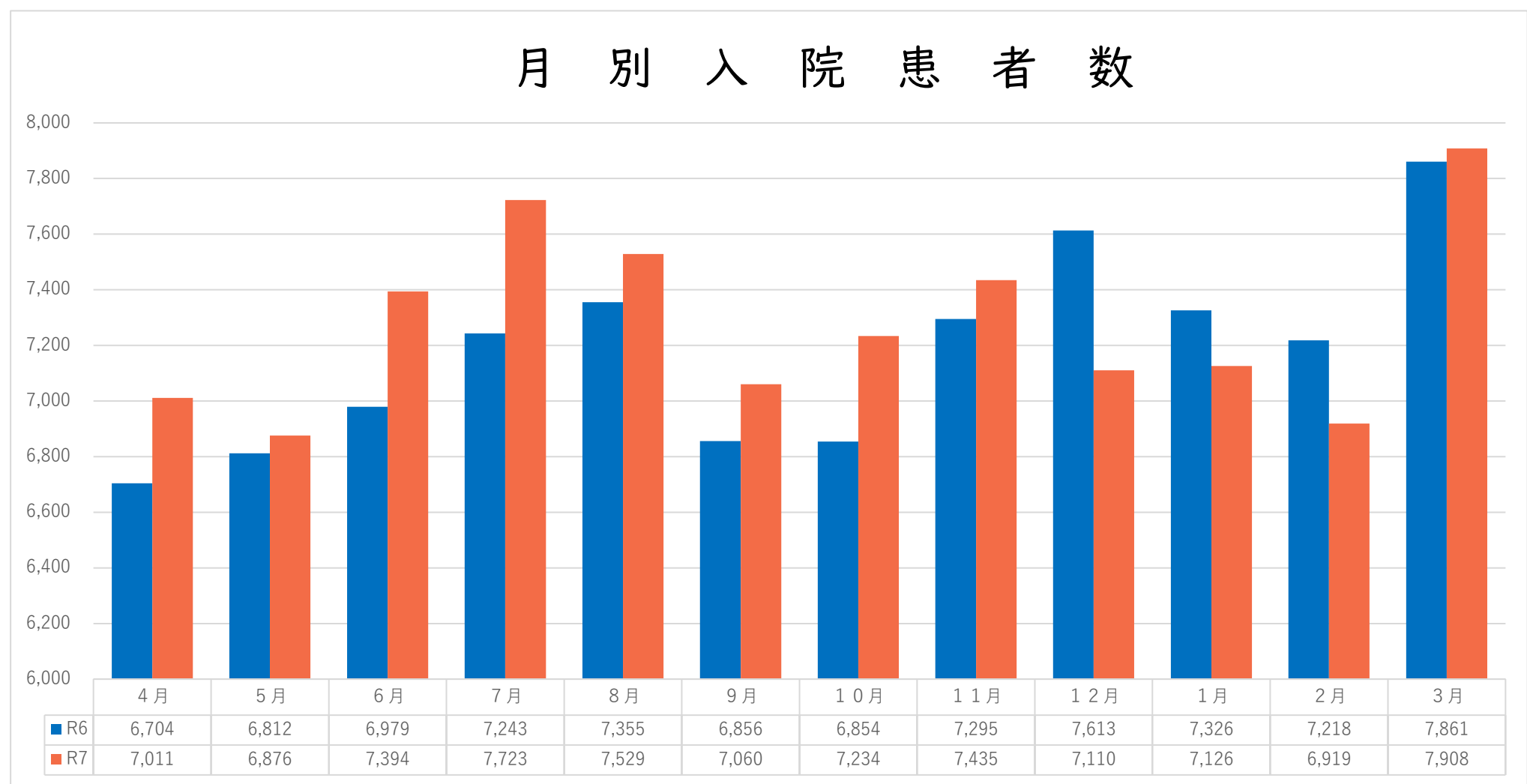
## ➔ KPI達成のための取組指標

新紹介件数：825件

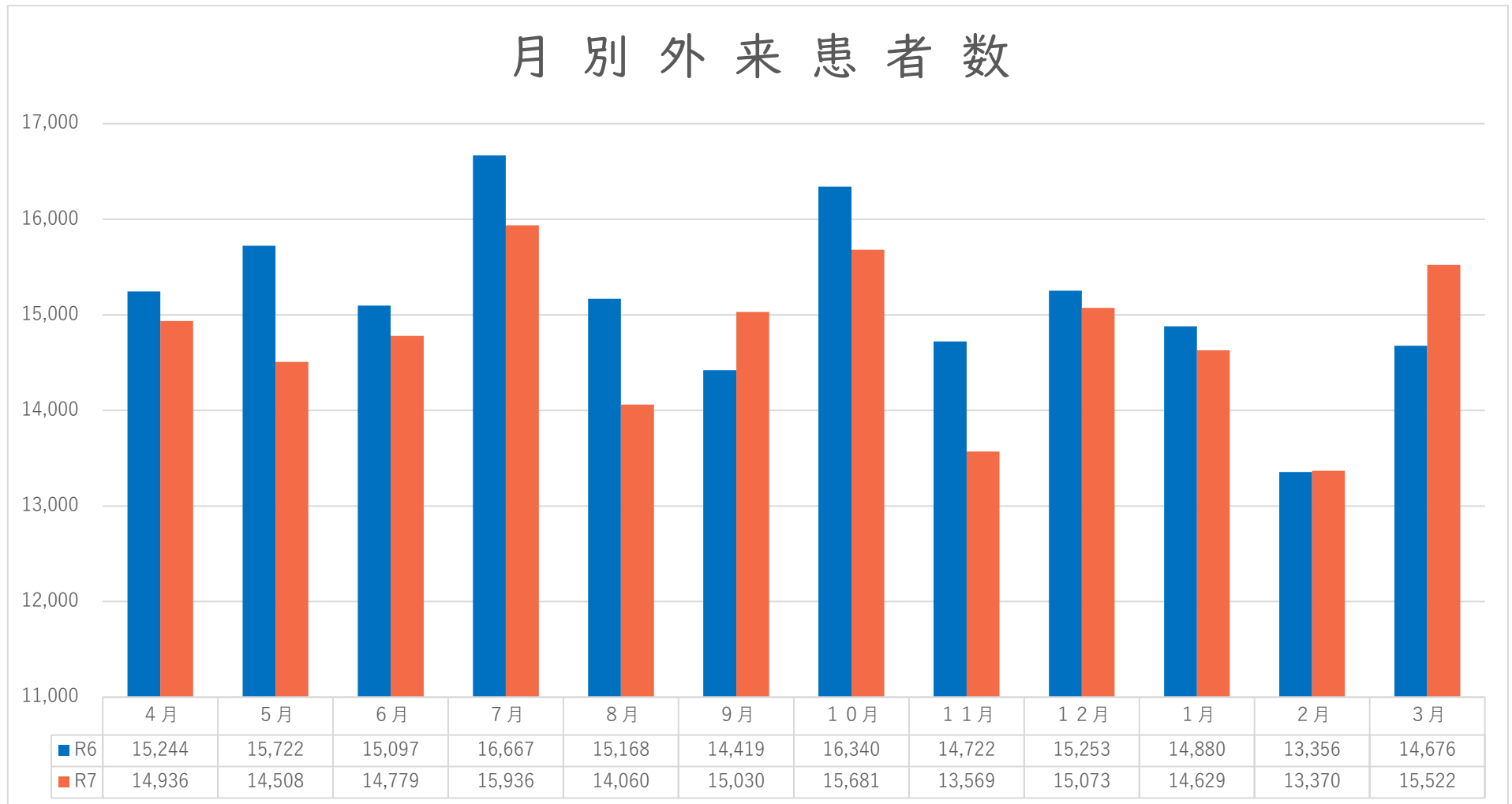
救急応需率：90%

手術件数：340件

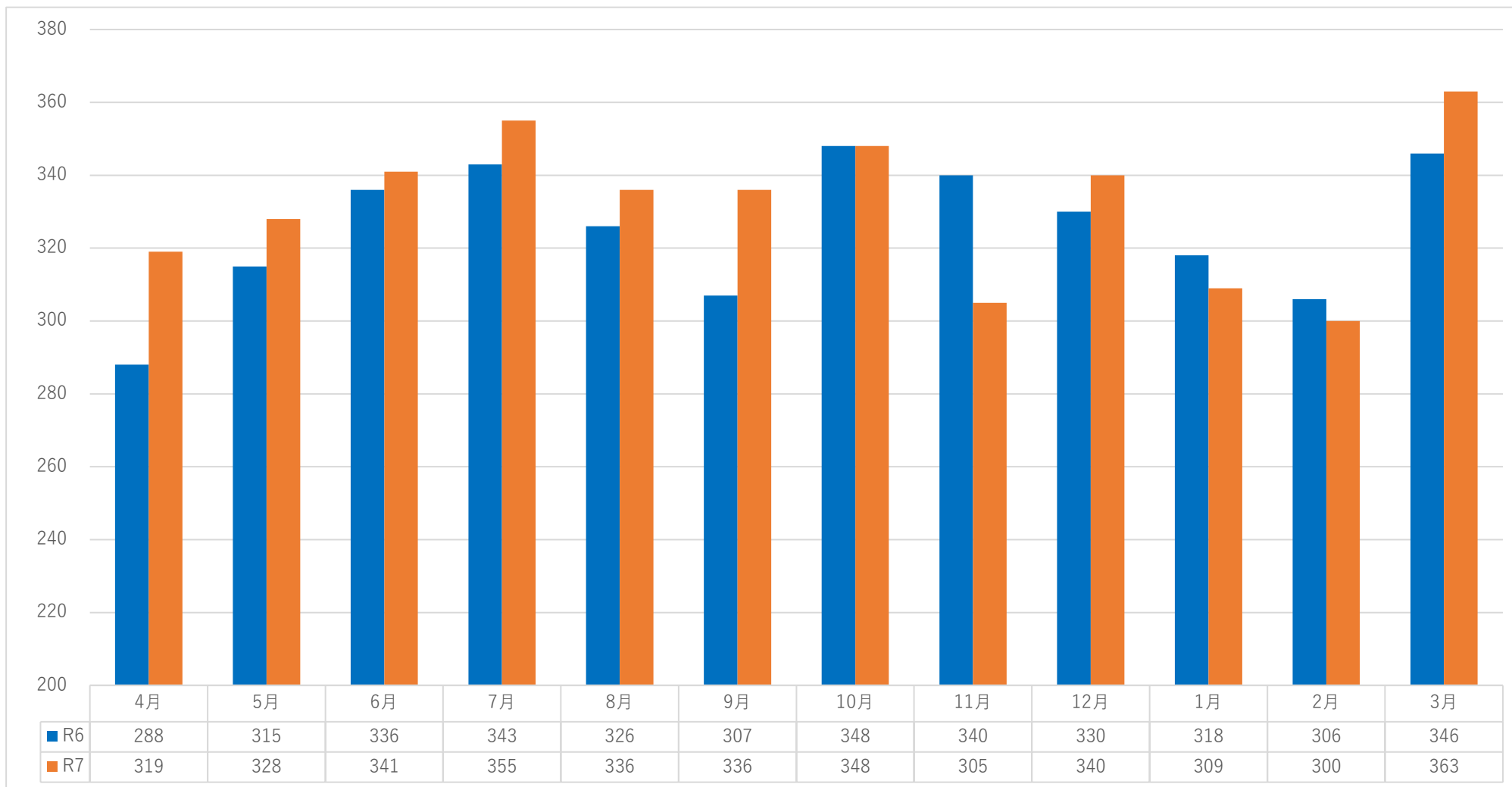
◆ 入院患者数状況 延べ87,325人(1日平均239.2人)  
⇒前年度比で**1,209人増**(ただし、令和6年度は8月末まで35床休棟)



◆ 外来患者数状況 延べ177,093人(1日平均731.8人)  
 ⇒ 全体的に減少傾向となり、前年度比で**4,451人減**



# ◆ 手術件数 計3,980件（前年度比で **77件増**）



◆ 診療単価

入院 68,203円  
(前年度比で**1,827円 増**)

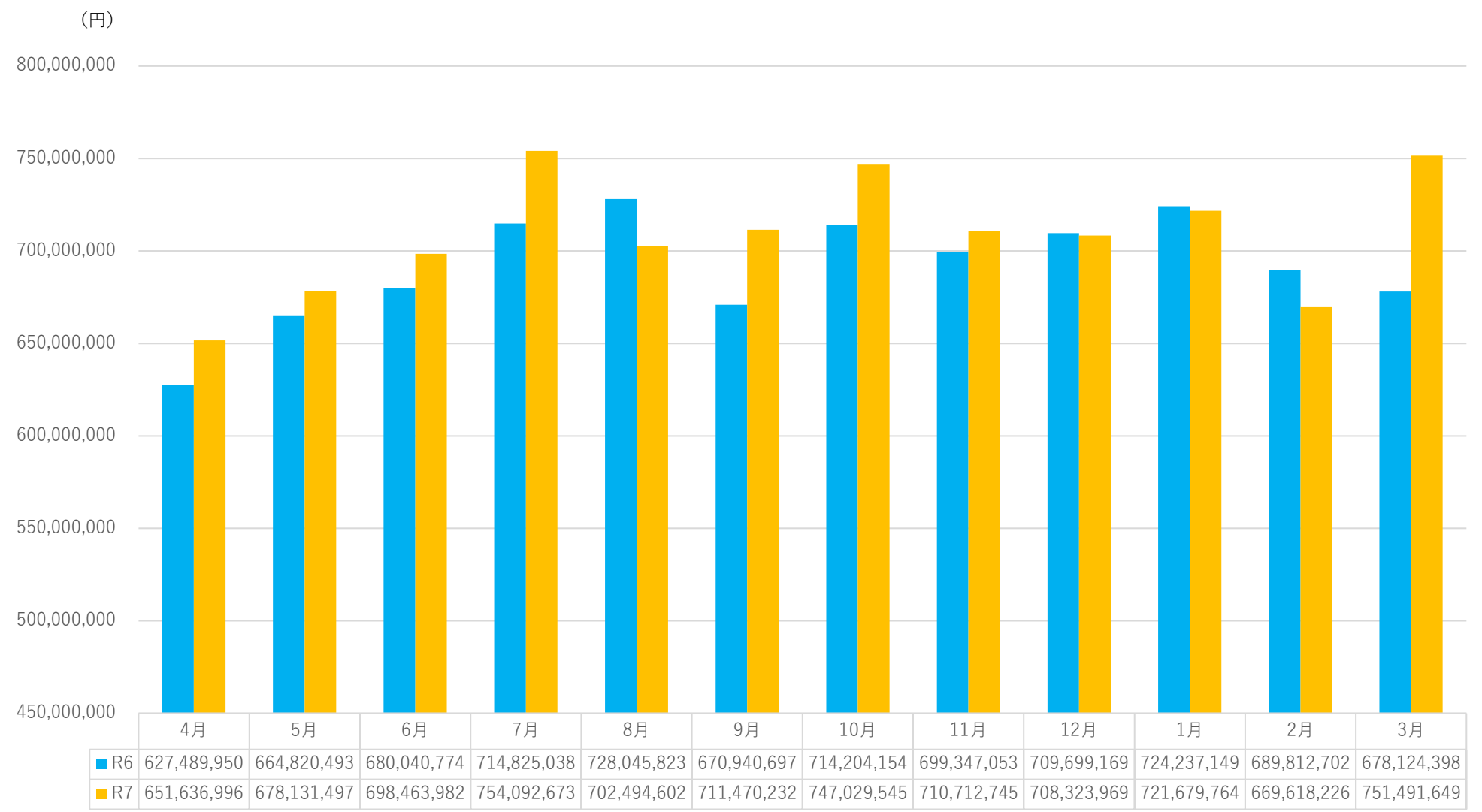
外来 14,395円  
(前年度比で**153円 減**)

◆ 病床稼働率 83.1% (239.2床/288床)

※休棟中の6階西病棟(47床)を除く

◆入院・外来収益（計）は、約**85**億円⇒前年度比で**約1.8億円 増**

（月平均 入院4億9,631万7,535円、外来2億1,244万4,622円）



事業実績

KPI と KPI 達成のための取組指標等 (令和7年度3月分) 「○」 達成 「●」 未達成

	指標	目標値	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計値 (※)平均値
KPI	DPC期間II 超え率	30%以下	33.2%	31.4%	31.4%	30.0%	31.7%	29.1%	25.4%	28.6%	25.0%	27.2%	26.2%	28.3%	29.0%
			●	●	●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○
	病床稼働率 (稼働病床：288床)	87% (251床/288床)	81.1%	77.0%	85.6%	86.5%	84.3%	81.7%	81.0%	86.1%	79.6%	79.8%	85.8%	88.6%	83.1%
			233.7床	221.8床	246.5床	249.1床	242.9床	235.3床	233.4床	247.8床	229.4床	229.9床	247.1床	255.1床	239.3床
取組指標	新紹介件数 (※)	825件以上	893件	809件	850件	871件	740件	829件	914件	727件	771件	727件	716件	847件	808件
			○	●	○	○	●	○	○	●	●	●	●	○	●
	救急応需率	90%以上	84.3%	86.5%	90.3%	91.4%	91.8%	93.5%	91.4%	90.2%	93.5%	93.2%	95.6%	96.9%	91.4%
			●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	手術件数 (※)	340件以上	319件	328件	341件	355件	336件	336件	348件	305件	340件	309件	300件	363件	332件
			●	●	○	○	●	●	○	●	○	●	●	○	●

病床稼働率 (許可病床：335床)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計値
	69.8%	66.2%	73.6%	74.4%	72.5%	70.2%	69.7%	74.0%	68.5%	68.6%	73.8%	76.1%	71.4%

◆ 収益は前年度比で増加したものの、入院・外来患者数・単価は予算時想定を下回った

		実績	予算
入院	延患者数	87,325人	90,283人
	診療単価	68,203円	68,470円
外来	延患者数	177,093人	180,870人
	診療単価	14,395円	15,212円

◆ 費用は、人事院勧告に伴う給与改定等による人件費の増加や物価高騰の影響で、大幅に増加

	R6	R7
人勧平均改定率	2.76%	3.62%
当院平均改定率	4.3%	3.3%

◆ 空調改修や高額医療機器の故障により修繕費も増加

◆ 診療報酬返還金の3億2千万円も

⇒ 決算では令和6年度よりも厳しい状況が予想される

# 3. 令和8年度の取り組み

# ◆ 令和8年度 KGIとKPI

## KGI (重要目標達成指標)

入院収益：年間**67**億円  
➔上半期：5億4千万円/月  
下半期：5億8千万円/月

外来収益：年間**28**億円  
➔2億4千万円/月

合 計：年間**95**億円

## KPI (重要業績評価指標)

病床稼働率：  
上半期：288床の**87**% (251床)  
下半期：335床の**80**% (268床)

入院単価：**71,000**円

# ◆ KGI ・ KPI を達成する具体的取り組み目標

- ① **手術件数**：350件／月（サブ目標：全身麻酔率 65%）  
単価向上に向けて、急性期病院として症例実施が重要とされる全身麻酔率をサブ目標に設定（令和7年4月～令和8年2月の平均：件数333件、全身麻酔率 60.0%）
- ② **新紹介件数**：830件／月  
地域医療機関への訪問活動計画を策定したうえで、積極的に訪問し、地域連携強化を図るとともに患者受入れも積極的に行う。  
（令和7年4月～令和8年2月の平均：804件）
- ③ **外来診療単価**：10%増  
長期通院患者に対し適切な検査等を実施することにより患者メリットと診療単価向上の両立を図る  
（令和7年4月～令和8年2月の平均：14,590円）
- ④ **救急応需率**：90%・**入院率**：40%  
地域住民の生命を守るために公立病院が果たすべき責務を自覚し、応需率の向上を図るとともに、帰宅後の急変リスクについても十分考慮のうえ、入院の可否を判断する。  
（令和7年4月～令和8年2月の平均：応需率91.0%、入院率38.9%）



▲令和8年度 柱のポスター

## ◆ 令和8年度のイベント

- ▶ 6月に**診療報酬改定**（プラス改定）
- ▶ 10月から**6階西病棟**を**開棟**を目指す（全病棟による運用開始）

## ◆ 取り組みのポイント！

「**経営強化プラン（第3次中期経営計画）**」に基づく**取組**

- ▶ 昨年度見直したプランに掲げる取り組みを着実に実行する

**収益の増加**

- ▶ 入院・外来収益の増（**年間95億円**の収益を確保）

**費用の抑制**

- ▶ 人件費・医師応援謝金・看護師派遣の抑制

（病棟の開棟等による人員増や今年度も予想される給与増の改定の影響を

最低限にとどめるべく適正化に努める）

- ▶ 医療材料費・医療用薬品費の抑制と医療機器等整備の適正化

（目に見える効果を生む）

# 経営改善に向けたその他の重点的な取り組み

## ◆ 施設基準の届出や加算・指導料の算定率向上

令和8年6月の診療報酬改定に合わせ、最大限の加算・指導料を算定するよう取り組むほか、人員配置などの課題により未取得の加算についても、取得に向けて取り組みます。また、外部識者による助言を受けつつ、多職種参加の勉強会を開催するなど、施設基準に対する職員全体の意識と知識の向上を図ります。

## ◆ 徹底したコスト削減に向けた取り組み

医療材料費や医療用薬品費の抑制のため、全国の医療機関の購入価格の照会・比較ができるベンチマークシステムを活用するとともに、医療機器等については、現行機器の継続利用を前提とするなど、更なる歳出抑制に努めます。また、厳しい経営状況の要因である人件費の急激な増加に対応するため、人員の適正化を図りつつ、最大の効果が発揮できる体制を構築します。

## ◆ 誇りとやりがいを持って働く職場環境の醸成と働き方改革の推進

「医療従事者等の負担の軽減及び処遇改善に資する計画」に基づき、医師事務作業補助者や看護補助者の配置するほか、各職種の役割分担などにより、引き続き職場環境の充実を図ります。また、メンタルヘルスやハラスメント防止研修等を実施し、誰もが働きやすい職場風土の醸成を図ります。

北河内二次医療圏で  
唯一の公立の総合病院として、



「心のかような医療を行い、  
信頼される病院」

を理念に市民のみなさんに  
質の高い医療を提供してまいります